

# 地方における他地区購買の実態と心理評価に関する研究

—札幌市を母都市とする石狩市と喜茂別町を例に—

# A STUDY ON ACTUAL CONDITIONS AND PSYCHOLOGICAL EVALUATIONS OF THE DISTANT SHOPPING IN RURAL AREAS

—As an example Ishikari city and Kimobetsu town with Sapporo city as the core city—

西尾洸毅 — \* 1      市村恒士 — \* 2  
大坂谷吉行 — \* 3      真境名達哉 — \* 2

Hiroki NISHIO — \* 1      Koji ICHIMURA — \* 2  
Yoshiyuki OSAKAYA — \* 3      Tatsuya MAJIKINA — \* 2

キーワード：

他地区購買, 買物行動, 心理評価, 母平均の差の検定, 主成分分析, 単相関分析

Keywords:

Distant shopping, Shopping behavior, Psychological evaluation, Hypothesis testing for the difference in means, Principal component analysis, Single correlation analysis

This study aims to determine the possible correlation between features of distant shopping and the impressions of distant shopping. The study used questionnaire surveys in three urban locations: one core city (the Chuo district in Sapporo city); and two satellite cities (Ishikari city and Kimobetsu town). The main conclusions of the study are as follows: (1) more than 80% of respondents in the three areas go shopping in Sapporo city at the weekend. (2) The significant features of distant shopping included: go shopping with other people, eat out, do other activities besides shopping, and long duration. These features were especially significant for respondents from Kimobetsu town. (3) Positive impressions of distant shopping on weekends are greater than on weekdays. (4) There is a correlation between features of distant shopping and positive impressions. (5) Younger people's positive impressions are correlated with shopping with their families.

## 1. 背景・目的

住環境を評価する項目の一つに買物のしやすさがある。買物において衣料品等の「買回品」だけでなく、生鮮食料品等の「最寄品」も買物先までの距離(以下、買物距離)が遠い場合には様々な弊害が考えられるが、北海道においては、近隣の自治体まで出掛けて行う買物(以下、「他地区購買」)が多くみられる。「北海道広域商圏動向調査」<sup>文1)</sup>(以下、「商圏調査」)によると、全道188市区町村のうち最寄品の他地区購買率(=他地区購買金額/全購買金額)が80%を超える市区町村は48%を占めている<sup>注1)</sup>。買物に関する既往研究では、買物弱者に関する研究が多い。例えば高齢者については買物距離が遠くなると食事の回数が減るとの報告(樋野<sup>文2)</sup>)や、高齢/非高齢に関わらず、買物距離が遠いと不満が高くなるとの報告(近藤<sup>文3)</sup>)がある。これらは「生活に必要な買物の困難さ」から居住生活の一面を捉えている。しかし、地方に住まう多くの人々が困難を抱えながら買物をしなければならない環境に住み続けていることも考えにくい。例えば、買物には健康などの「福祉的機能」<sup>文4)</sup>や楽しさといった「心理的機能」<sup>文5)文6)</sup>の側面もあり、地方の他地区購買においても困難だけでは捉えられない側面があるのではないだろうか。

今後の人口減少に伴い、多くの地方でも買物距離が遠くなることが予想される。本研究では、北海道で他地区に購買を大きく委ねる地方自治体を取り上げ、一般的な居住者の買物の実態および買物行動の心理評価の把握を行うもので、特に居住環境を買物という視点

で考えるための質的な資料獲得を目指す。

## 2. 研究の方法

他地区購買が多い地方自治体、自地区購買が多い自治体およびその郊外の自治体を対象にアンケート調査を行い、買物実態および心理評価を捉える。分析では、買物実態および心理評価を母平均の差の検定を用いて比較し、他地区購買の特性を捉える。また、買物実態と心理評価の単相関分析を用いて、心理評価の要因を探る。

### 2.1 調査地の購買状況

商圏調査によれば、北海道は母都市とその周辺の市町村で構成される8つの広域商圏<sup>注2)注3)</sup>に分かれる。札幌市以外の母都市では、札幌市への買物が含まれると考えたため、本研究では札幌広域商圏(56自治体で構成)を対象とした。札幌広域商圏の各自治体における最寄品の他地区購買率を求めると、80%を超える市区町村数は24/56(43%)ある。なお、他地区での買回品購買率と最寄品購買率は、北海道全体で相関係数0.96と高い相関があり、札幌広域商圏においても相関係数0.93と高い相関がある(図1)。調査地には札幌広域商圏のうち、札幌市から距離が遠く、札幌市での最寄品購買率が高い喜茂別町(44%)を選定した(図2)。また喜茂別町と比較するために、札幌市までの距離が短く、札幌市での最寄品購買率が高い石狩市(46%)、自地区での購買率が高い居住地である札幌市を代表して、中央区(以下、「札幌市」と称す)を選定した。なお、石狩市は札幌市

<sup>1)</sup> 室蘭工業大学大学院博士後期課程工学専攻  
(〒050-8585 北海道室蘭市水元町27-1)

<sup>2)</sup> 室蘭工業大学くらし環境系領域 准教授・博士(工学)

<sup>3)</sup> 室蘭工業大学くらし環境系領域 教授・博士(工学)

<sup>1)</sup> Doctor Course, Muroran Institute of Technology

<sup>2)</sup> Assoc. Prof., Muroran Institute of Technology, Dr. Eng.

<sup>3)</sup> Prof., Muroran Institute of Technology, Dr. Eng.

北区に隣接するベッドタウンであるが、喜茂別町は札幌市南区に隣接するも、札幌市中心までの距離が遠く、かつ鉄道も1986年に廃線となっており、札幌市のベッドタウンにはなっていない<sup>注4)</sup>。

2.2 調査地の購買環境

H22 年国勢調査<sup>文8)</sup>によると調査地の人口は、札幌市中央区約22万人、石狩市約6万人、喜茂別町約2500人である(表1)。「iタウンページ」より購買環境をみると<sup>注5)</sup>、いずれの店舗・施設も札幌市中央区、石狩市、喜茂別町の順に少なくなり、特にデパート、映画館、カラオケは石狩市と喜茂別町には存在しないことが分かる。また、1人当たり売場面積でみると<sup>注6)</sup>、石狩市1.22[m<sup>2</sup>/人]と喜茂別町1.28[m<sup>2</sup>/人]は近似しているが、石狩市には1000m<sup>2</sup>以上の大型店が9店(最大は24000m<sup>2</sup>:図3)<sup>文10)</sup>あるのに対し、喜茂別町では約800m<sup>2</sup>のスーパー(図4)が最大で、他にはコンビニしかなく、後に述べるヒアリングからも生鮮食品等を中心に購買環境への不満が聞かれた。

2.3 買物行動及び心理評価の把握の方法

1) アンケート調査の概要

NHKの国民生活時間調査<sup>文11)</sup>によると、北海道の買物行為者率は平日(29%)よりも、土曜日(39%)、日曜日(44%)の方が高く、週末の

買物が多い<sup>注7)</sup>。購買距離が遠い他地区購買は、時間も長いと考えられるため、アンケートは休日を対象とした他地区購買の調査(2014年12月～2015年1月:回収率30%、以下「休日調査」)を行い、比較のため平日の自地区購買も尋ねた(2015年12月～2016年1月:回収率35%、以下「平日調査」)<sup>注8)</sup>。送付先は、住宅地図を用いて喜茂別町、石狩市、札幌市で各300件をランダムに抽出し、休日調査、平日調査別に各900件(計1800件)配布した。回答者の属性をみると調査地別に大きな差は見られず、休日・平日調査共に、回答者は年齢「60歳以上」が6、7割、家族形態は「夫婦のみ」が4割、「夫婦と子供」が3割を占めていた(表2)。

2) アンケート調査の内容

アンケートは買物実態と心理評価に関する項目の大きく2つに分けて尋ねた(表3)。買物実態に関しては他地区購買の特徴を把握するために買物先までの「移動・同伴」、買物先での「買物行動」および外食や娯楽施設の利用といった「付帯行動」の3つの項目に分けて尋ねた。「移動・同伴」については「どのような手段で、誰と、移動にどれくらいの時間がかかるか」を尋ねた。商圈調査では、金額のみでみた購買率のため、「買物行動」では「買回数や買物先、最寄品買回品購入率、1回あたりの金額、買物にかかる時間」を尋ねた。「付帯行動」は外食先、外食を行う割合(以下、「外食率」)、買

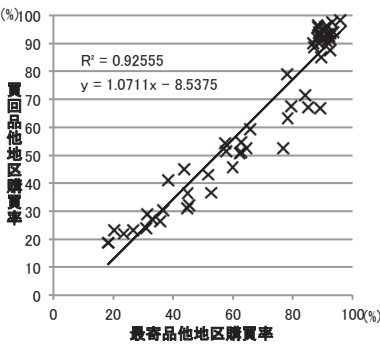


図1 札幌広域圏の他地区購買率



図2 調査地の位置

表2 アンケート調査の結果

		送付	不着	配布	回収	回収率	性別		年齢		家族形態						
							男性	女性	40歳以下	40歳以上	単身	夫婦と子供	夫婦のみ	二世帯	三世帯	その他	
休日	札幌市	300	28	272	86	32	34	66	4	36	60	7	28	43	8	0	11
	石狩市	300	14	286	78	27	38	62	7	31	61	10	20	43	12	1	3
	喜茂別町	300	75	225	67	30	32	68	1	38	61	8	31	52	12	0	9
	合計	900	117	783	231	30	35	65	2	38	60	8	31	45	11	0	7
平日	札幌市	300	19	281	98	35	32	68	2	31	67	16	32	32	11	2	6
	石狩市	300	13	287	101	35	31	69	3	24	73	13	25	48	7	1	7
	喜茂別町	300	77	223	75	34	51	49	1	27	72	12	19	51	5	1	11
	合計	900	109	791	274	35	37	63	2	27	71	14	26	43	8	1	8

※「回収率」より左の列は[件]、右の列は[%]

表1 調査地の概要

		札幌市	石狩市	喜茂別町	
人口（人）		224400	59986	2448	
小売業事業所数（件）		2098	229	30	
小売業売場面積（㎡）		434733	73204	3135	
1人当り売場面積（㎡/人）		1.94	1.22	1.28	
市区町内店舗・施設数	総合	デパート	198	0	0
		スーパー、コンビニ	103	18	5
	専門用品店	レンタルビデオ店	12	1	0
		書店	50	6	0
		家具家電量販店	60	18	0
		衣料品店	524	16	1
		子供服店	16	1	0
		スポーツ用品店	37	1	0
		日用品雑貨店	53	8	2
		ホームセンター	4	3	0
		外食店	レストラン	268	13
	ファミリーレストラン		20	3	0
	ファストフード店		69	4	0
	カフェ		276	12	0
	買物以外の店舗・施設	映画館	11	0	0
		カラオケ	42	0	0
		パチンコ	39	7	0
図書館		9	6	0	
水族館・美術館等		22	2	1	
スポーツ施設		57	20	4	
公園		133	4	0	
	理容室・美容室	621	41	4	

表3 調査項目の概要

	項目
移動・同伴	交通手段*2: 自家用車/バス・電車/徒歩
	片道の移動時間(分)
	同伴者*2: 家族/友人/なし
	同伴者を連れてくる割合(同伴率)*1
買物行動	買物回数(回/月)
	買物先*2: 大型店・百貨店/スーパー/レンタルビデオ店/書籍店/家具・家電量販店/衣料品店/雑貨店/子供用品店/スポーツ用品店/ホームセンター
	最寄品買回品別の購入する割合*1
	買物金額(円/回)
付帯行動	買物時間(分)
	外食先*2: レストラン/ファミリーレストラン/ファストフード/カフェ
	外食をする割合(外食率)*1
	外食の金額(円)
心理評価*3	買物以外の利用店舗・施設*2: 映画館/カラオケ/パチンコ/図書館/公園/水族館・美術館/スポーツ施設/理容室・美容室
	買物以外の店舗・施設を利用する割合(その他利用頻度)*1
	楽しい/ワクワクする/くつろげる/充実している/気分転換できる/退屈する/つまらない

\*1 必ず行う=100%/4回中3回=75%/4回中2回=50%/4回中1回=25%/4回中1回未満=10%/全く行かない=0%  
\*2 複数選択可  
\*3 あてはまる=6/まああてはまる=5/どちらかというあてはまる=4/どちらかというあてはまらない=3/あまりあてはまらない=2/あてはまらない=1



図3 石狩市の大規模小売店



図4 喜茂別町で最大面積のスーパー

物以外に利用する店舗・施設、買物以外の店舗・施設を利用する割合(以下、「その他利用率」)を尋ねた(表3)。平日調査では、平日に最寄品の買物が多いことを想定し、買物先を限定し、付帯行動は割合のみを尋ねた<sup>注9)</sup>。

心理評価は、「楽しい」「わくわくする」という積極的な評価と「退屈する」「つまらない」という消極的な評価を併せて尋ねた。また、休日・平日を比較するために「気分転換できる」「充実している」「くつろげる」も加え、計7項目を設定し、各々6件法で尋ねた。

2.4 比較分析の方法

他地区購買の特性を明らかにするためにアンケートで把握した買物実態を集計し、調査地別に比較する。また、調査地別の休日・平日の心理評価を母平均の差の検定(両側検定)により比較することで、休日の他地区購買における心理評価の特徴を明らかにする。最後に、買物行動の心理評価の要因を買物実態と心理評価の単相関分析を調査地別および高齢者、非高齢者別に比較することで明らかにする。

3. 他地区購買の実態

3.1 休日・平日の購買先における平均買物回数および金額

休日・平日の購買先別の買物回数、金額は表4となる。喜茂別町で休日の購買先に札幌市を挙げているのは58人おり、平均の買物回数は月に1.2回、平均の金額は16429円となる。休日の札幌市以外の買物先としては、51人が倶知安町を挙げており、月に2.2回(平均金額9451円)の買物を行っている。休日の買物回数では、自地区(喜茂別町)が6.4回と多くみえるが、回答者は5名と少ない。また「買物回数×金額」をみると、札幌市と倶知安町はほぼ同額で、金額ベースでみた商圈調査の結果と類似している。一方、平日の喜茂別町の買物先は、回数および回答者数をみても、倶知安町よりも自地区内(喜茂別町)が最も多い。札幌市は休日・平日共に、自地区内(札幌市)で買物回数および回答者数が多く、石狩市に関しては、休日の札幌市での買物は平均月4.1回、「買物回数×金額」では、自地区(石狩市)と札幌市で約半々費やしているのに対し、平日は石狩市(自地区)での買物が多いことが分かる。

表4 休日・平日の平均買物回数と平均金額

		回数	購買先	買物回数	n	金額	n	回数×金額	N	N/回数
札幌市	休日	86	札幌市	4.8	75	11662	74	52333	69	80%
			北広島市	0.8	9	17067	15	13166	11	13%
			小樽市	0.8	4	6000	6	3375	4	5%
			江別市	1.0	2	17500	2	17500	2	2%
札幌市	平日	98	札幌市	10.1	89	5714	92	49607	88	90%
			北広島市	0.9	9	8556	9	8333	9	9%
石狩市	休日	78	石狩市	4.1	73	6229	72	23660	72	92%
			札幌市	2.5	71	9812	69	23580	68	87%
	平日	101	石狩市	9	94	5384	95	43946	93	92%
			札幌市	3.4	66	7178	73	21641	64	63%
喜茂別町	休日	67	札幌市	1.2	58	16429	56	20823	55	82%
			倶知安町	2.2	51	9451	51	22961	51	76%
			喜茂別町	6.4	5	4600	5	22400	5	7%
			伊達市	2.2	5	9800	5	19400	5	7%
	平日	75	喜茂別町	7.5	66	3184	70	22478	64	85%
			倶知安町	2.6	39	8000	50	21026	39	52%
			札幌市	3.3	9	15200	10	54778	9	12%
			伊達市	4.0	2	9000	2	34000	2	3%

3.2 調査地別の休日の札幌市での買物実態

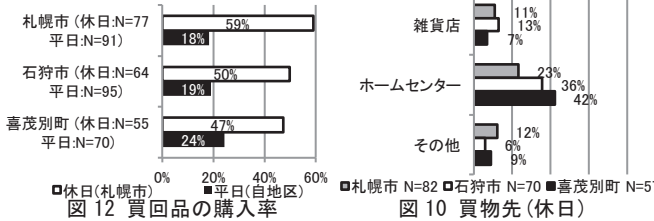
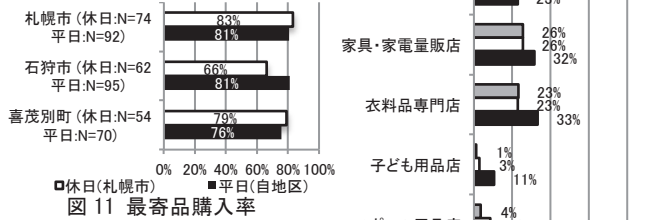
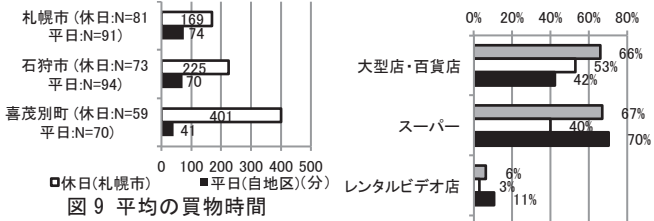
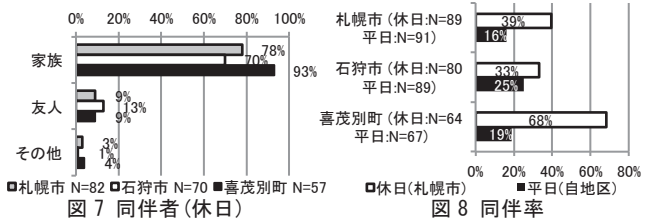
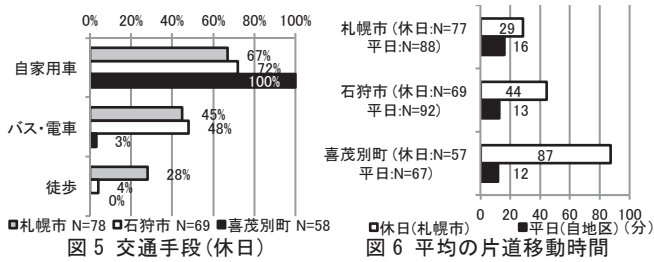
引き続き、休日の札幌市における買物の概況をみる。

1) 移動と同伴

全調査地で休日の札幌市での買物の交通手段は自家用車が多く(図5)、平均の片道移動時間は、札幌市(29分)、石狩市(44分)、喜茂別町(87分)であり、喜茂別町は石狩市の2倍の時間を費やしている(図6)。同伴者は全調査地で家族が多いが(図7)、同伴率では、喜茂別町(68%)が最も多く、2回に1回は家族と一緒に買物を行っている(図8)。

2) 買物内容

休日の札幌市での買物の平均時間は、札幌市(169分)、石狩市(225分)、喜茂別町(401分)となっており、札幌市、石狩市に比べて、喜茂別町は1.5倍以上長く、半日掛かりで買物を行っていることが分かる(図9)。買物先は、大型店・百貨店が札幌市(66%)や石狩市





(53%)で多いのに対し、喜茂別町はスーパー(70%)が最も多い(図10)．買物に際して最寄品購入率(図11)は札幌市(83%)に次いで喜茂別町(79%)が高いことが分かる．また、買回品購入率では、喜茂別町は47%と他地区に比べて低いことをみると(図12)と、喜茂別町における休日の札幌市での買物は主に生活に必要な物の買物であることが窺われる．

### 3) 買物付帯行動

買物の際の外食率は、札幌市(28%)、石狩市(35%)、喜茂別町(67%)となっており、買物に時間をかけている喜茂別町が特に高く(図13)、外食先は、喜茂別町にはないファミリーレストラン(62%)が多い(図14)．全調査地で買物以外の店舗・施設は映画館、理容室・美容室の利用がみられるが(図16)、その利用割合は、全調査地で低く(札幌市15%、石狩市16%、喜茂別町22%)、4回中1回未満である(図15)．

### 3.3 平日の自地区での買物行動と休日の札幌市での買物行動の比較

3.1 で述べたように、平日には全調査地で自地区の買物が多い．平日の自地区での買物先までの交通手段は休日同様に全調査地で自家用車が多い(図17)．平均移動時間は札幌市(16分)、石狩市(13分)、喜茂別町(12分)であり、休日より短く、特に喜茂別町は短い(図6)．平均買物時間も札幌市(74分)、石狩市(70分)、喜茂別町(41分)と、全調査地で休日より短く、喜茂別町は他と比べても約半分である(図9)．平日の同伴者は、休日同様に全調査地で家族が多いが(図18)、

同伴率は札幌市(16%)、石狩市(25%)、喜茂別町(19%)と、休日より低い(図8)．平日の買物先は、全調査地でスーパーが多いが喜茂別町はコンビニ(43%)も多くなっている(図19)．また、買回品の購入率は平日よりも休日の方が高いが(図12)、最寄品の購入率は休日・平日に関わらず高い(図11)．平日の買物の際の外食率は、札幌市(15%)、石狩市(9%)、喜茂別町(3%)であり、平日には外食があまり行われない(図13)．買物以外の店舗・施設の利用率も全調査地で低い(札幌市19%、石狩市16%、喜茂別町15%)(図15)．

### 3.4 ヒアリングによる喜茂別町の買物実態

喜茂別町の買物実態が高齢者、非高齢者ではどの程度異なるかを確認するため、町役場を通じて若年世帯および高齢世帯にヒアリング調査を行った(2014年9月、2015年8月：非高齢者4名、高齢者13名)．子供をもつ30～40代の非高齢者では、「札幌市での買物は10時に出て、18時に帰る(男、42歳)」「週に1回は倶知安町、月に1回程度は札幌市を利用(男、38歳)」「町内のスーパーは値段が高く、新鮮ではないので行かない(女、44歳)」「子供用品店はなく、札幌市南区の専門店で買う(女、41歳)」等の声が聞かれた．一方で、75歳以上の13名では、「町内のスーパーは週に3回は利用(女、83歳)」「札幌市や倶知安町は月に1回程度、ほとんど町外では買わない(女、86歳)」．「町外で買物をすると持って帰るのが大変だから(女、76歳)」とも述べていた．同じ喜茂別町居住者でも、非高齢者は倶知安

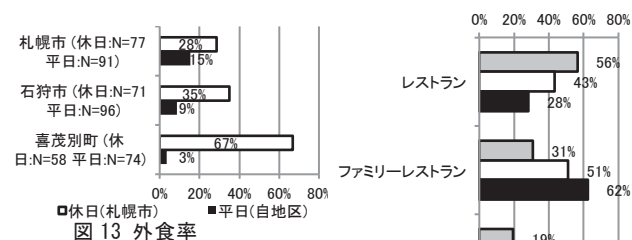


図13 外食率

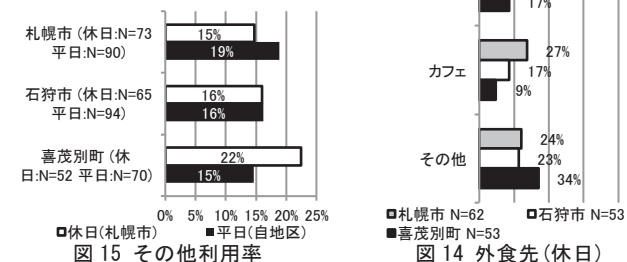


図14 外食先(休日)

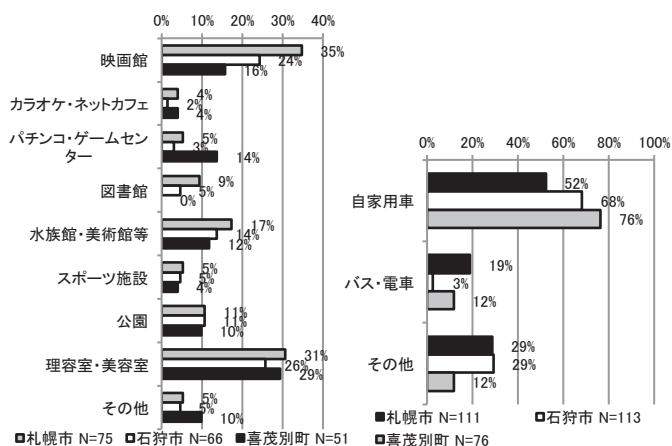


図15 その他利用率

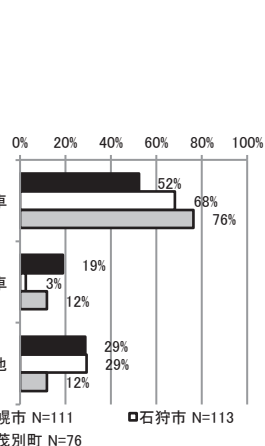


図16 買物以外の利用店舗施設(休日)

		休日		平日		差	P値	不偏分散		標準偏差		標準誤差	
		平均	N	平均	N			休日	平日	休日	平日	休日	平日
札幌市	楽しい	4.2	72	3.4	86	0.8	**	2.0	2.3	1.4	1.5	0.2	0.2
	ワクワクする	3.4	69	2.8	85	0.6	*	2.0	2.2	1.4	1.5	0.2	0.2
	くつろげる	3.1	70	2.9	87	0.2		1.9	2.2	1.3	1.5	0.2	0.2
	充実する	4.0	73	3.5	85	0.5	*	1.6	2.2	1.2	1.5	0.2	0.2
	気分転換できる	4.4	72	3.9	89	0.5	*	1.9	2.2	1.4	1.5	0.2	0.2
	退屈する	1.8	69	1.7	87	0.1		0.9	1.1	0.9	1.0	0.1	0.1
石狩市	つまらない	1.8	68	1.7	85	0.1		1.0	1.2	1.0	1.1	0.1	0.1
	楽しい	3.9	64	3.2	88	0.8	**	2.6	2.0	1.6	1.4	0.2	0.2
	ワクワクする	3.4	64	2.4	85	1.0	**	2.6	1.3	1.6	1.2	0.2	0.1
	くつろげる	3.3	64	2.8	86	0.5		2.6	2.0	1.6	1.4	0.2	0.2
	充実する	3.7	64	3.4	86	0.3		2.6	2.0	1.6	1.4	0.2	0.2
	気分転換できる	4.2	67	3.8	89	0.4		2.4	2.3	1.6	1.5	0.2	0.2
喜茂別町	退屈する	1.9	63	2.1	84	0.2		1.4	1.3	1.2	1.1	0.2	0.1
	つまらない	1.8	63	2.0	88	0.2		1.0	1.4	1.0	1.2	0.1	0.1
	楽しい	4.4	51	2.4	62	2.0	**	1.9	2.1	1.4	1.5	0.2	0.2
	ワクワクする	3.4	51	1.9	60	1.5	**	2.8	1.2	1.7	1.1	0.2	0.1
	くつろげる	3.4	51	2.3	64	1.1	**	2.1	1.8	1.4	1.3	0.2	0.2
	充実する	4.1	53	2.2	61	1.9	**	1.6	1.4	1.3	1.2	0.2	0.2
	気分転換できる	4.4	52	2.7	64	1.7	**	1.8	2.4	1.4	1.5	0.2	0.2
	退屈する	2.0	51	2.8	60	-0.8	**	1.1	2.5	1.0	1.6	0.1	0.2
	つまらない	1.8	51	2.8	62	-1.0	**	1.1	3.0	1.0	1.7	0.2	0.2

※P 値 5%未満をハッチング

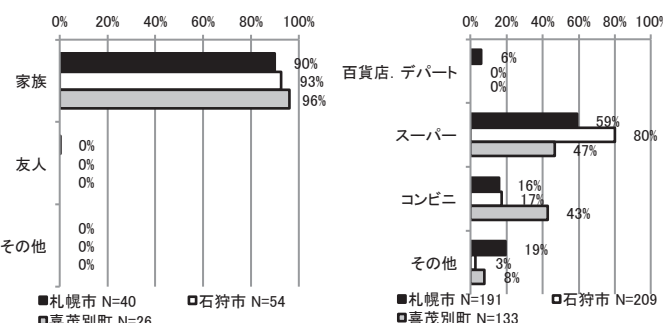


図17 交通手段(平日)

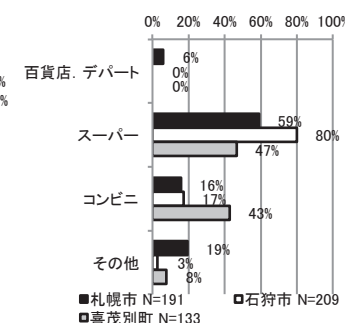


図18 同伴者(平日)

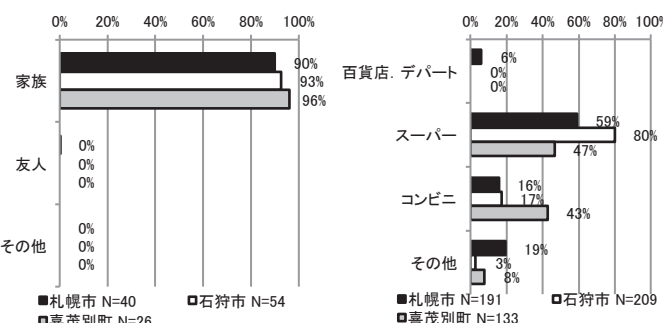


図19 買物先(平日)

町での買物回数が多いが、特に後期高齢者は自地区での買物回数が多いようになっており、他地区での買物には必ずしも積極的ではないという一面も確認された。

4. 他地区購買行動の心理評価

4.1 休日・平日の買物行動の心理評価の比較

休日の買物の心理評価の各項目について「あてはまる＝6」～「あてはまらない＝1」として平均値を算出した。全調査地で「退屈する」、「つまらない」に比べて、「楽しい」等の5項目が高い(表5)。調査地別にみても差異はほとんど見られず、平日の買物の心理評価でも、全調査地で全項目の平均値が低い。各心理評価項目については、休日の札幌市での買物と平日の自地区での買物の母平均の差を検定した(表5)。21組のうち、13組で有意差が得られた。全調査地で「楽しい」「わくわくする」について平日の自地区での買物よりも休日の札幌市での買物の方が平均値は高い。中でも「楽しい」の有意差は札幌市(0.8)、石狩市(0.8)に比べて、喜茂別町(2.0)は倍以上の差が見られる。その他にも喜茂別町については全評価項目について有意差が得られており、「充実する(1.9)」、「気分転換できる(1.7)」は「楽しい」に次いで有意差が大きい。また、平日の自地区での買物の方が「退屈する(-0.8)」、「つまらない(-1.0)」という評価になっている。

4.2 休日の心理評価の要因

7つの心理評価項目の関係を分析するため、主成分分析を行った(表6)。全調査地で共通して、固有値が1以上の主成分は主成分1

と主成分2であり、これらの累積寄与率で80%を得られたため、主成分1と主成分2を評価軸として採用した。各主成分に含まれる評価項目の主成分負荷量は、主成分2は「退屈する」、「つまらない」の負荷量が高く、主成分1は「楽しい」等、その他の5項目の負荷量が高い。このことから、主成分1を「ポジティブ評価」、主成分2を「ネガティブ評価」とする。

これら2つの心理評価の要因を探るため、アンケート調査より把握した買物実態に関する項目と主成分負荷量の単相関分析および無相関の検定を行った(表7)。名義変数(同伴者、大型店・百貨店・スーパー、専門用品店、外食先、買物以外の店舗・施設)については「有り＝1」、「無し＝0」とした。ポジティブ評価と有意に正の相関が認められた項目をみると、喜茂別町では、「買回品購入率(0.39)」が高く、「金額(0.4)」をかけること、買物の際の「外食率(0.32)」が高いこと、娯楽施設等「買物以外の店舗・施設の利用(0.55)」はポジティブ評価と正の相関がある。喜茂別町では休日の札幌市での買物で外食等の付帯行動の割合も高く、時間もかかっているが、これらの行動をポジティブに評価していると考えられる。一方で、札幌市と石狩市は金額をかける等の買物行動の項目はポジティブ評価と相関が認められず、外食率が高いことのみがポジティブ評価に関連している。また、全調査地でネガティブ評価と有意に正の相関が認められる項目はなく、これらの買物実態はネガティブ評価とは関連がみられない。

4.3 年齢別の休日の心理評価の向上要因

年齢によって、ポジティブ評価とネガティブ評価に関連する買物行動が異なると考えられる。非高齢者(60歳未満)、高齢者(60歳以上)に分けて、心理評価の主成分分析および買物実態の項目と主成分負荷量の単相関分析を行った(表7)。ポジティブ評価と有意に正の相関が認められた項目をみると、喜茂別町では非高齢者と高齢者に共通して、「買物以外の店舗・施設の利用」と外食に関する項目はポジティブ評価と正の相関がある。加えて、高齢者のポジティブ評価の要因は「金額(0.37)」をかけ、「買回品購入率(0.47)」が高いことであり、他地区購買に積極的ではないことを踏まえると、買回品を購入する機会と捉えていると考えられる。非高齢者のポジティブ評価の要因は札幌に行く「買物回数(0.53)」、「最寄品購入率(0.56)」が高いこと、「同伴者(0.51)」と一緒に行くことであり、他地区購買

表6 休日の心理評価の主成分分析結果

	札幌市		石狩市		喜茂別町	
	1	2	1	2	1	2
	固有値	4.06	1.43	4.32	1.54	4.20
寄与率	0.58	0.20	0.62	0.22	0.60	0.20
累積 寄与率	0.58	0.78	0.62	0.84	0.60	0.80
主成分負荷量	楽しい	0.90	0.11	0.93	0.12	0.85
	わくわくする	0.83	0.27	0.91	0.11	0.85
	くつろげる	0.83	0.23	0.86	0.21	0.79
	充実している	0.89	0.16	0.87	0.13	0.88
	気分転換できる	0.84	0.02	0.86	0.28	0.81
	退屈する	-0.34	0.85	-0.41	0.85	-0.59
	つまらない	-0.53	0.73	-0.49	0.80	-0.59

※主成分1、2のうち主成分負荷量が高い方をハッチング

表7 休日の心理評価と買物行動の単相関分析および無相関の検定

		調査地全体							非高齢者のみ									高齢者のみ								
		ポジティブ			ネガティブ				ポジティブ			ネガティブ			ポジティブ			ネガティブ			札幌市	石狩市	喜茂別町	札幌市	石狩市	喜茂別町
		札幌市	石狩市	喜茂別町	札幌市	石狩市	喜茂別町		札幌市	石狩市	喜茂別町	札幌市	石狩市	喜茂別町	札幌市	石狩市	喜茂別町	札幌市	石狩市	喜茂別町						
N		68	60	51	68	60	51		29	27	21	29	27	21	35	33	30	35	33	30						
買物実態	移動・同伴	移動時間	-0.11	0.18	-0.01	-0.01	-0.04	-0.17	0.03	-0.07	0.03	0.11	-0.02	-0.11	-0.15	0.49**	-0.12	0.14	0.04	-0.22						
		同伴者	-0.04	0.16	0.17	0.15	0.22	-0.17	-0.05	0.47*	0.51*	-0.05	0.33	-0.38	-0.08	-0.05	0.02	0.13	0.10	-0.12						
		同伴率	0.01	0.06	-0.12	0.09	0.02	-0.03	-0.04	0.24	0.02	-0.03	0.28	0.17	-0.03	-0.02	-0.26	-0.09	-0.17	-0.09						
	買物行動	買物回数	0.12	0.07	0.23	-0.14	-0.28*	-0.06	-0.05	0.13	0.53*	-0.46*	0.00	0.00	0.26	0.07	-0.11	-0.18	-0.41*	-0.01						
		大型店・百貨店・スーパー	-0.12	-0.10	0.15	0.00	-0.03	0.08	-0.03	-0.06	0.41	-0.16	0.23	0.29	0.05	-0.11	-0.05	0.00	-0.21	0.04						
		専門用品店	-0.13	-0.10	-0.02	0.05	-0.08	-0.1	-0.13	-0.31	0.04	0.11	-0.17	-0.15	-0.18	0.07	-0.09	0.11	0.05	-0.08						
		最寄品購入率	-0.12	0.11	0.22	-0.22	0.05	-0.16	0.05	-0.05	0.56**	-0.27	0.16	-0.18	-0.19	0.16	-0.06	-0.16	0.06	-0.08						
		買回品購入率	0.14	0.2	0.39**	-0.22	0.09	0.23	0.61**	0.23	0.27	-0.19	-0.26	0.29	-0.33	0.26	0.47**	-0.16	0.30	0.13						
		金額	0.00	0.14	0.40**	-0.10	0.09	-0.08	0.10	0.05	0.40	-0.30	-0.22	0.31	-0.10	0.25	0.37*	-0.02	0.25	-0.37*						
		買物時間	0.23	0.23	0.2	0.08	-0.09	-0.11	0.06	0.17	0.34	0.17	-0.28	0.01	0.40*	0.27	0.07	0.03	0.02	-0.20						
	付帯行動	外食先	0.08	0.08	0.40**	0.19	0.17	-0.09	-0.07	0.22	0.57**	-0.16	0.16	-0.07	0.11	0.00	0.32	0.23	0.11	-0.15						
		外食率	0.30*	0.35**	0.32*	0.17	-0.04	0.05	0.23	0.29	0.12	0.06	-0.36	0.31	0.29	0.4*	0.41*	0.1	0.14	-0.15						
		外食金額	0.10	0.21	0.28*	0.15	0.05	-0.05	0.15	0.12	0.25	-0.22	0.10	0.16	0.02	0.31	0.28	0.37*	0.06	-0.18						
		買物以外の店舗・施設	0.11	-0.11	0.55**	0.20	-0.18	0.15	0.03	0.04	0.69**	0.24	-0.58**	0.24	0.20	-0.25	0.43*	0.09	0.04	0.09						
		その他利用率	0.04	0.09	0.16	0.08	0.11	0.14	0.07	0.19	0.23	-0.07	-0.28	0.17	0.02	-0.04	0.08	0.25	0.46**	0.16						

※\*:5%有意, \*\*:1%有意, 有意水準5%未満の正の相関係数をハッチング

に積極的であることを踏まえると、同伴者と買物に出かける機会と捉えていると考えられる。同伴者別には家族についてポジティブ評価と有意に正の相関が認められた<sup>注 10)</sup>。石狩市では、高齢者のポジティブ評価の要因は「移動時間(0.49)」が長く、「外食率(0.4)」が高いことであるのに対し、非高齢者は喜茂別町同様、「同伴者(0.47)」と一緒に買物をポジティブに評価している。札幌市では、高齢者のポジティブ評価の要因は「時間(0.4)」が長いことであるのに対し、非高齢者は「買回品購入率(0.61)」が高いことが正に相関している。また、ネガティブ評価は、非高齢者については全調査地で正の相関は認められず、高齢者については札幌市で「外食金額」、石狩市で「その他利用率」のみが認められた。喜茂別町においては高齢者であっても正の相関が認められず、本研究で取り上げた買物実態の項目についてはネガティブ評価に関連していないと分かる。

5. 結果の要約と考察

本研究では他地区購買の実態と心理評価を明らかにした。得られた主な結果は下記である。

1) 他地区購買は休日が多いが平日であってもみられる。

札幌市での買物を行っている人は平日(石狩市 63%、喜茂別町 12%)よりも、休日(石狩市 87%、喜茂別町 82%)が多い。喜茂別町は平日には自地区(85%)に次いで札幌市よりも近い倶知安町(52%)で半数の人が買物を行っている。

2) 休日の他地区購買は付帯行動を伴い、時間も長く、地方では家族との同伴率が高い。

休日の札幌市での買物は石狩市よりも喜茂別町の方が、時間、金額をかけ、最寄品購買率、外食率の高い買物となっている。また、休日の札幌市での買物の同伴率は石狩市(33%)よりも喜茂別町(68%)が高く、喜茂別町にとっては特に家族と同伴して行う買物である。

3) ポジティブ評価は休日の方が高く、地方では差が大きい

全調査地で平日よりも休日のポジティブ評価が高く、調査地別には差がみられないが、特に最も時間をかけて行っている喜茂別町では、平日と休日の差が大きいことから、休日の他地区購買は楽しみの一つになっていると考えられる。

4) 地方において他地区購買の特性は心理評価と関連がある

喜茂別町は、他地区購買に付帯行動(外食、買物以外の店舗・施設の利用)を伴うが、これらの行動はポジティブ評価と正の相関がある。

5) 心理評価の要因は高齢者と非高齢者で異なる。

休日の札幌市での買物におけるポジティブ評価の要因は、喜茂別町では、付帯行動は高齢、非高齢に関わらず、ポジティブ評価と正に相関する。加えて高齢者は「買回品購入率」、「金額」が正に相関しており、他地区購買に積極的ではないことを踏まえると、休日の札幌市での買物を自地区では購入しがたい買回品を購入する機会と捉えていると考えられる。非高齢者は「買物回数」、「同伴者」が正に相関しており、石狩市でも非高齢者は「同伴者」が正に相関する。特に喜茂別町では家族と同伴することが正に相関しており、非高齢者は他地区購買に時間をかけ、積極的であることを踏まえると、休日の札幌市での買物を同伴者と買物に出掛ける機会と捉えていると考えられる。

6. 謝辞

末尾ながらアンケートおよびヒアリング調査にご協力いただいた中央区、石狩市、喜茂別町の皆様に記して謝意を表します。

注釈

注 1) 文 1) では全道の 188 市区町村における買物先(自治体単位)、購入量(金額)、購入品目(最寄品、買回品)を調査している。購入品目は最寄品 5 項目と買回品 10 項目の計 15 項目(表 8)の様に定義しており、購買先別の購入金額をベースに購買率を算出している。全道で最寄品の他地区購買率(=他地区購買金額/全購買金額)が 80%を超える市区町村は 91(48%)であり、買回品と最寄品の他地区購買率は相関係数 0.96 で相関が高い。

表 8 最寄品と買回品の定義

最寄品	買回品
(1) 生鮮食料品	(6) 高級衣料
(2) 一般食料品	(7) 呉服・寝具
(3) 日用雑貨	(8) 服飾品・アクセサリ
(4) 医療品・化粧品	(9) 靴・カバン
(5) 実用衣料	(10) 時計・メガネ・カメラ
	(11) 家庭電気製品
	(12) 家具・インテリア
	(13) 書籍・文具
	(14) 楽器・DVD・スポーツ用品
	(15) 贈答品

注 2) 商圏人口は札幌広域商圏 287 万 906 人、次いで旭川広域商圏 63 万 2073 人であり、札幌広域商圏は旭川広域商圏の 4.5 倍である。

注 3) 北海道広域商圏動向調査では中学校を通してアンケートを配布し、人口規模別に設定した必要配布数に満たない場合はランダムサンプリングをしている。一般に人口規模が少ないほど中学生も少なくなるので人口規模の少ない市町村では中学生のいる世帯以外の方が回答率が高くなる。

注 4) 文 7) より、札幌市の 2000 年から 2020 年までの長期計画においても喜茂別町は札幌都市圏 11 市町村には含まれておらず、文 8) より 15 歳以上の従業者のうち、札幌市への従業者率をみると石狩市(50%、133510 人)に比べ、喜茂別町(0%、1 人)は少ない。喜茂別町は 72%が自市町村で従業、他市町村では留寿都(18%)が最も多い。

注 5) 購買環境については、調査対象地別に i タウンページより各店舗を検索して数を把握した(2014 年 10 月)。

注 6) 文 9) より市町村別の売場面積を把握し、文 8) の市町村別人口で除した。

注 7) 文 11) では、「ある時間幅(15 分・6 時間・24 時間)に買物を 15 分以上した人が占める割合」を買物行為者率として、平日、土曜日、日曜日を比較している。

注 8) アンケートにおいては、休日に札幌市、平日に自地区での買物が行われると推測して、詳細な質問項目は購買地を指定して尋ねているが、休日の札幌市以外の購買地、平日の自地区以外の購買地での買物についても尋ねている。結果は表 4。

注 9) 平日調査では、最寄品の買物が中心であると考え、外食先、買物以外に利用する店舗・施設については尋ねていない。また、買物先についても、「大型店・百貨店、スーパー、コンビニ、その他」に限定した。

注 10) 喜茂別町の非高齢者について、同伴者(家族、友人)別の相関分析結果では家族がポジティブ評価と有意に正の相関が認められた(表 9)。

表 9 同伴者別の相関分析結果

		非高齢者のみ				高齢者のみ			
		ポジティブ		ネガティブ		ポジティブ		ネガティブ	
		石狩市	喜茂別町	石狩市	喜茂別町	石狩市	喜茂別町	石狩市	喜茂別町
同伴者	家族	27	21	27	21	33	30	33	30
	友人	0.15	0.51*	0.31	-0.38	-0.04	0.02	0.04	-0.12
		0.32	0.36	-0.07	0.03	0.09	0.46*	0.3	-0.04

※\*: 5%有意、有意水準 5%未満の正の相関係数をハッチング

参考文献

文 1) 北海道経済部商工局「平成 21 年度北海道広域商圏動向調査報告書」平成 22 年 2 月  
文 2) 樋野公宏「買物不便が高齢者の食生活に与える影響とその対策 板橋地域における高齢者買物行動調査の結果分析」日本建築学会計画系論文集 第 556 巻, pp. 235-239, 2002 年 6 月  
文 3) 近藤光男「地方都市における消費者の買物意識と行動の分析」日本建築学会計画系論文集 第 74 巻 第 636 号, pp. 417-422, 2009 年 2 月  
文 4) 谷本圭志「中山間地域における高齢者の買い物行動と健康維持に関する実証分析-移動販売サービスに着目して-」公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 Vol. 50 No. 3, pp. 324-330, 2015 年 10 月  
文 5) 鈴木春菜「買い物行動における「楽しさ」に影響を及ぼす要因に関する研究」土木計画学研究・論文集, Vol. 27, No. 2, pp. 425-430, 2010 年  
文 6) 井上綾野「快楽的買物動機と支出行動」目白大学経営学研究, 2007 年  
文 7) 札幌市企画調整局企画部企画課「第 4 次札幌市長期総合計画」平成 12 年 1 月  
文 8) 総務省統計局「H22 年度国勢調査」平成 22 年 10 月  
文 9) 北海道総合政策部「H24 年経済センサス-活動調査」平成 25 年 8 月  
文 10) 東洋経済新聞社「全国大型小売店総覧」2010 年  
文 11) NHK 放送文化研究所「2010 年国民生活時間調査報告書」平成 23 年 2 月

[2016 年 2 月 3 日原稿受理 2016 年 4 月 7 日採用決定]